

Garry Kasparov

アバスト セキュリティ アンバサダー

Garry Kasparovは1985年に史上最年少の世界チェスチャンピオンとなり、20年間、世界有数のプレイヤーとして活躍しました。

Garryは、スーパーコンピュータ「Deep Blue」との対戦で初めてAIが持つ可能性を発見し、それ以来、未来のテクノロジーについて語り続け、現在はアバストのセキュリティアンバサダーとして活動を行っています。最大のライバルであるAnatoly Karpovとの試合や、IBMのスーパーコンピュータ「Deep Blue」との試合は、これまでにない形でチェスと人工知能を広く世に知らしめました。



Garryはロシアの民主化リーダーでありながら、世界中の個人の自由を擁護しており、ニューヨークに本拠を置くHuman Rights Foundationの会長としても引き続き活動しています。

また、彼はオックスフォード・マーティン・スクールの客員研究員で、人間と機械のコラボレーションに関する内容を中心に講義をしています。意思決定、戦略、技術、人工知能についても、ビジネス、学術、政治のプロに向けて積極的な講演活動を行っています。彼の政治、認知、技術に関する著作は影響力が大きく、世界中で多くの主要出版物に掲載されてきました。Garryはチェスについて有名なシリーズを2つ、ベストセラーとなった意思決定に関する『How Life Imitates Chess』、そしてロシアとウラジミール・プーチンに関する『Winter is Coming』を執筆しました。

近著には、『Deep Thinking : Where Machine Intelligence Ends and Human Creativity Begins』（2017年5月出版）があります。

2016年、Avast Softwareよりセキュリティアンバサダーに任命され、サイバーセキュリティとデジタルの将来について議論を先導しています。

Garryは現在、妻の Dasha と 2人の子供と共にニューヨーク市に住んでいます。